

図書館だより

開館時間（共通）9時～17時30分

☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

☎ 葦山図書館 ☎ 055-949-8605

URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般

【葦山】

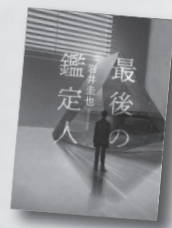


レッドゾーン
夏川草介／著
小学館

日進義信は、肝臓を専門とする勤務医。院長は横浜に停泊するクルーズ船のコロナ患者受け入れを決める。コロナ禍最前線に立つ現役医師が自らの体験をもとに綴る物語。

一般

【葦山】



最後の鑑定人
岩井圭也／著
KADOKAWA

ある事件をきっかけに科捜研を辞めた土門誠は、民間の鑑定所を開設する。群を抜いた能力により不可解な事件を科学の力で解決する孤高の鑑定人。サイエンス×ミステリ。

一般

【中央】



晴明変生
森谷明子／著
角川春樹事務所

安倍益材の子・葛丸(後の晴明)は、幼い頃から人の死を先見する力があり、そのせいで、宮中での毒殺の疑いが益材にかかる。幼き日の安倍晴明が挑む平安時代ミステリ。

一般

【中央】



戦争日記
オリガ・グレベンニク／著
河出書房新社

『子どもたちの腕に名前と生年月日、連絡先を書いた。万が一死んでしまっても身元がわかるように』。ウクライナの絵本作家が鉛筆1本で描いた国外脱出までの日々。

新着本コーナーから

一般

嘘つきジェンガ

一般

素晴らしき国

一般

越境刑事

一般

家裁調査官・庵原かのん

一般

おっさん社会が生きづらい

一般

開運祈願しずおかご利益めぐり

児童

なにになれちゃう？

辻村深月／著【中央・葦山】

小路幸也／著【葦山】

中山七里／著【中央】

乃南アサ／著【中央】

小島慶子／著【中央】

静岡新聞社／編【葦山】

チョーヒカル／著【中央・葦山】

11月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

○ 中央休館日 □ 葦山休館日
◇ 両館休館日 ☆ おはなし会

11月のおはなし会

中央図書館 12日(土)11時～

葦山図書館 12日(土)11時～
26日(土)11時～

※事前申し込み不要

くぬぎ会館こども広場

17日(木)11時10分～

※予約制 ☎ 0558-76-1346

お知らせ

データベースのご案内

中央図書館の利用者用インターネットパソコンで、新聞、法令、官報のデータベースを利用できます。

- ・静岡新聞データベース plus 日経テレコン
- ・現行法令電子版 Super 法令 Web
- ・ネット版官報

ご利用の際は、カウンターでパソコン利用申込書に記入してください。印刷は、コピーサービスと同様の申し込みにより有料で職員が行います。詳しくは職員にお尋ねください。

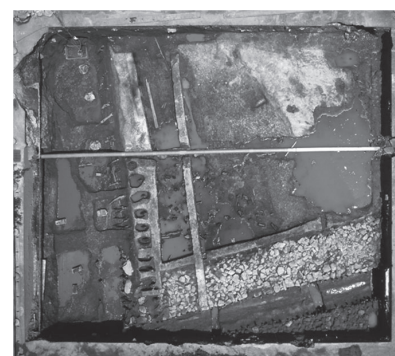
文化財通信

その 209

鎌倉時代だけではなく！
伊豆の国市各所に散らばる至宝

第8回 葦山中学区〔その2〕

☎ 文化財課 ☎ 055-948-1428



▲写真1 給食センターを建てるときに見つかった堀と石敷き道



▲写真2 葦山中学校東側で見つかった建物跡と水路



▲写真3 給食センターを建てるときに見つかった土器や木器



▲写真4 給食センターを建てるときに見つかった陶磁器

鎌倉時代だけではなく！伊豆の国市各所に散らばる至宝の第8回となる今月号では、「葦山城跡」についてご紹介します。
葦山城跡は、葦山中学校の北側に位置する龍城山(標高約53m)を中心に、要害のある天ヶ岳(標高約128m)や周辺の平野部も含めて広がる戦国時代の城跡です。
丘陵部分だけではなく、現在は住宅や葦山中学校となっている場所からも、遺構が見つかっています。
現在の葦山中学校が立っている周辺にも城に係る遺構があります。現在の給食センターやプールのある場所には城を守る大きな堀が掘られていました。写真1は給食セン

ターを建てているときに発見された堀跡と石敷きの道です。
また、グラウンド東側の山裾には居住区画と思われる屋敷地が見つかっています。写真2にあるように、水路は石組みになっており、城下町に住む人々のために道や排水路が整備されていることがうかがえます。
このような遺構からは、遺物がたくさん出土しています。写真3にあるように、給食センターを建てる前の発掘の際にも、宴会に使ったであろう「かわらけ(素焼きの土器)」や箸、大陸から輸入された陶磁器などさまざまな遺物が見つかっています。中でも注目すべきものが、写真4右下のすり鉢です。すり鉢はすり

目がなくなるほど使い込んだものも見つかっており、当時の人々が一生懸命に調理をしていたことが想像できます。
城というと軍事施設としてのイメージが強いですが、城に付属する城下町や屋敷地からは、当時の日常生活の様子や食文化を示す遺物が多く見つかっています。こうした遺物は、戦国時代の伊豆の国市を知ることのできる手掛かりであり、地域の至宝といえるかもしれません。
(注)要害：とびで、守りに適している場所。